喜志南遺跡

富田林市遺跡調査会報告12
編集・発行　富田林市遺跡調査会
住　　所　〒584－8511
富田林市常盤町１番１号
発行年月日　1998年３月31日

調　査　地　大阪府富田林市喜志町1丁目1318－1
調査原因　分譲住宅建設に伴う緊急発掘調査
調査主体　富田林市遺跡調査会
調査担当者　田中正利
調査面積　111m²
調査期間　1997年12月11日～1998年2月28日

はじめに（図１）

喜志南遺跡は、富田林市の北部、石川河川敷喜志グラウンドの西側に広がる縄文時代から中世にかけての遺跡です。遺跡は石川西岸の低位段丘上にあり、この北西部の中位段丘上には弥生時代中期の打製石器や石屑などが大量に見つかった喜志遺跡があります。

喜志南遺跡ではこれまでに調査が行われていませんが、遺跡周辺で縄文時代から弥生時代にかけての石器が採集されていることが紹介されています[1]。

今回は喜志南遺跡で初めての本格的な発掘調査で、遺跡の南端に近い地点について、申請者である羽曳野住宅株式会社の協力を得て行いました。

層序

現況は資材置き場で、調査の結果、盛り土の下で耕作面が３面確認できました。ただし、調査区の東端と西端では３面ありますが、中央では耕作面は1面しかありませんでした。これはもともとの地形が中央が高く、東または西に行くにつれて低くなっているためだと考えられます。

遺構はすべて現況から約0.5～0.6m下の地山面で見つかりました。

遺構と遺物（図４）

今回の調査では落ち込みと溝、土坑、ピットが見つかりました。

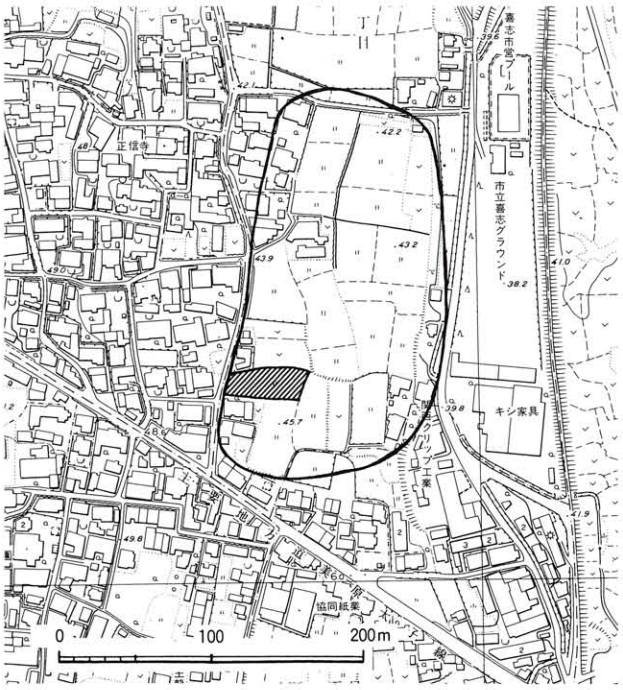


図１　調査地位置図

落ち込み　調査区の東端部で見つかった落ち込みです。深さは約0.2mですが、北西部分が１段深くなっており、約0.3mあります。埋土は上層・灰黄褐色弱粘質土、下層・淡黄灰色弱粘質土で、下層の埋土は遺構の東端でのみ確認できました。遺物は上層と下層で差がなく、縄文時代晩期の浅鉢（図３－２，３）やサヌカイト、奈良時代の土師器や須恵器が見つかっています。

溝　調査区の西側で見つかった、長さ1.1m、幅0.2m、深さ0.1mの浅い溝です。埋土は灰黄褐色弱粘質土で、遺物は見つかっていませんが、周りにはこれと同じ埋土を持つピットがいくつかあり、これらのピットと同じ時期の遺構と考えられます。

土坑（図２）　調査区の東側で見つかった、東西0.97m、南北1.02m、深さ0.25mの土坑です。土坑の中には河原石が多く入っていました。埋土は灰褐黄色弱粘質土で、埋土からは縄文時代晩期の浅鉢（図３－４）が見つかりました。その他の小片

についても縄文土器の破片であることから、この土坑は縄文時代晩期の遺構であると考えられます。

ピット　ピットは、中央でやや少ないものの、調査区全体で53見つかりました。埋土は大きく４つに分けることができます。

褐灰色弱粘質土を埋土とするピットは、調査区の東側で見られます。遺物が見つかっていませんが、遺構の切りあいから落ち込みよりも古い時期のもので、奈良時代以前の遺構ということになります。

灰黄褐色弱粘質土を埋土とするピットは調査区の全域で見られ、最も多くあります。時期については、遺物から12世紀後半のものと考えられ、同じ埋土である溝もこの時期の遺構です。

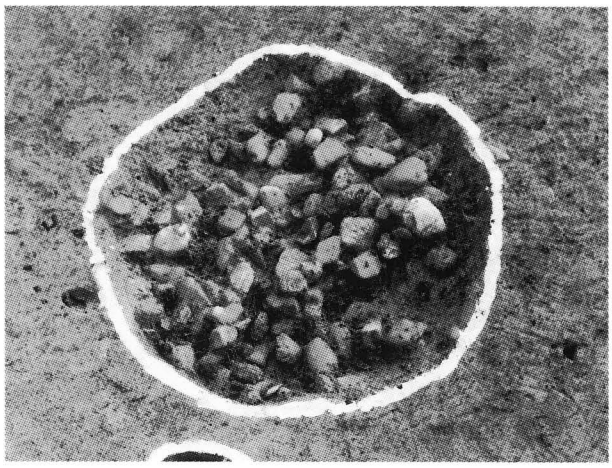
灰褐色弱粘質土を埋土とするピットは西側を中心に見られます。埋土から遺物は出土していませんが、灰黄褐色弱粘質土を埋土とするピットを切っているため、これより後の遺構であることが分かります。

灰黄色弱粘質土を埋土とする遺構は、調査区の中央部で見られます。見つかった瓦器（図３－５）から14世紀ごろと考えられますが、灰褐色弱粘質土を埋土とする遺構との前後関係については分かりません。

まとめ

今回は喜志南遺跡における初の本格的な発掘調査で、その結果、縄文時代晩期から中世にかけての遺構が見つかりました。

縄文時代晩期の遺物はこの時期の遺構である土坑の他にもそれより後の時代の遺構である落ち込みやピット、さらには耕土中（図３－１）からも出土しています。そしてそのほとんどが調査区の東側で出土していることから、縄文時代晩期の集落が調査区の東側に広がっていたと考えられます。また今回の調査では弥生時代の遺物はほとんど出土しておらず、これまでの採集資料でも弥生時代のものは多くありません。もしかすると縄文時代晩期にここで住んでいた人たちが弥生時代になって調査地の北西にある喜志遺跡に移動したのかも



土坑近景（北から）

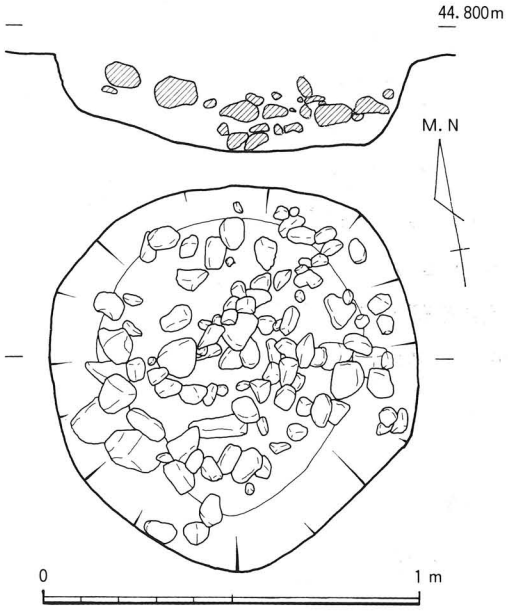
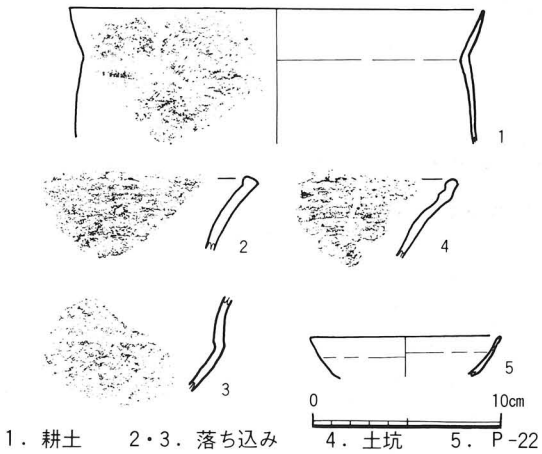


図２　土坑平面・断面図



１．耕土　２・３．落ち込み　４．土坑　５．P-22

図３　遺物実測図

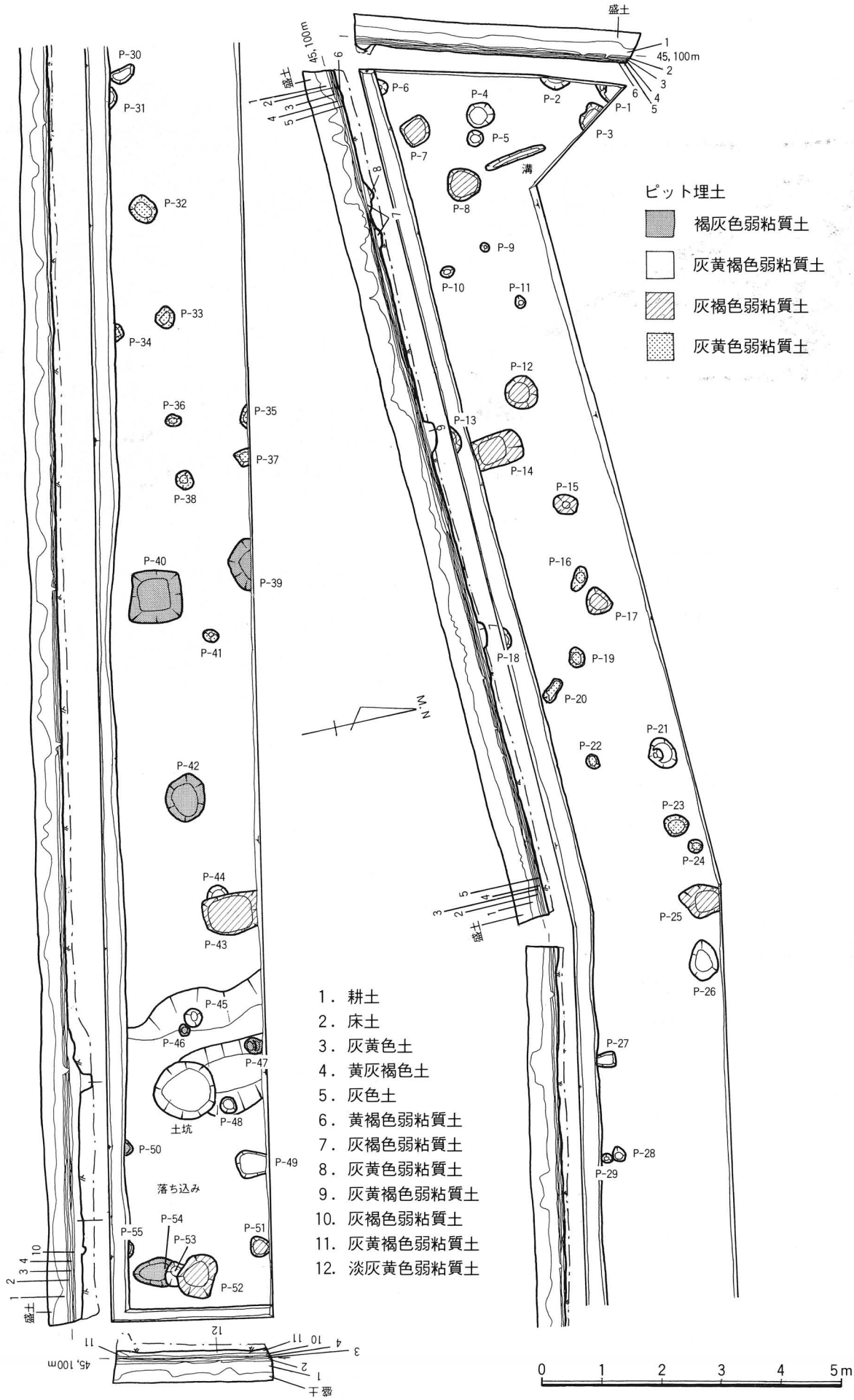

ピット埋土
褐灰色弱粘質土
灰黄褐色弱粘質土
灰褐色弱粘質土
灰黄色弱粘質土
1．耕土
2．床土
3．灰黄色土
4．黄灰褐色土
5．灰色土
6．黄褐色弱粘質土
7．灰褐色弱粘質土
8．灰黄色弱粘質土
9．灰黄褐色弱粘質土
10．灰褐色弱粘質土
11．灰黄褐色弱粘質土
12．淡灰黄色弱粘質土
盛土
45,100m
溝
土坑
落ち込み
P-1
P-2
P-3
P-4
P-5
P-6
P-7
P-8
P-9
P-10
P-11
P-12
P-13
P-14
P-15
P-16
P-17
P-18
P-19
P-20
P-21
P-22
P-23
P-24
P-25
P-26
P-27
P-28
P-29
P-30
P-31
P-32
P-33
P-34
P-35
P-36
P-37
P-38
P-39
P-40
P-41
P-42
P-43
P-44
P-45
P-46
P-47
P-48
P-49
P-50
P-51
P-52
P-53
P-54
P-55
M.N
0 1 2 3 4 5m

図４　調査区平面・断面図

（左上）調査区東半部（南西から）
（上）落ち込み近景（北東から）
（下）調査区西半部（南東から）

知れません。

落ち込みから見つかった遺物は主に奈良時代のもので、奈良時代に埋められたと考えられます。今回の調査ではこれ以外に奈良時代の遺構がありませんが、周辺にこの時期の集落があったと考えられます。

ピットは、時期の分からないものもありますが、その多くが中世のもので、この時期にはこの辺りが集落になっていたと考えられます。

今回の調査で、これまで分かっていなかった喜志南遺跡の様子が明らかにすることができ、喜志遺跡、喜志西遺跡を含めた地域での集落の移動や変化を知る上で重要な手がかりになるといえます。

註　『富田林市史』第1巻　1985　P167～171。
土井康雄・上原貴雄両氏所蔵の資料の内、A地点採集品が喜志南遺跡周辺で採集された資料である。

報告書抄録

ふりがな	きしみなみいせき
書名	喜志南遺跡
副書名	富田林市遺跡調査会報告12
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著書名	田中正利
編集機関	富田林市遺跡調査会
所在地	〒584－8511　大阪府富田林市常盤町１番１号　☎0721－25－1000
発行年月日	西暦1998年２月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 （m²）	調査原因
きしみなみいせき 喜志南遺跡	大阪府富田林市 喜志町１丁目 1318-1	27214		34° 31′ 05″	135° 37′ 05″	1997.12.11 ～ 1998.2.28	111.0	分譲住宅 建設に伴う 緊急発掘調査

所収遺物	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
喜志南遺跡	集落跡	縄文時代～中世	落ち込み、溝 土坑、ピット	縄文土器、土師器 須恵器、瓦器	